

# Economic Indicators

発表日: 2025年10月31日(金)

## 景気動向指数(2025年9月)の予測

～9月のCI一致指数は上昇も、10月分で基調判断が「悪化」に下方修正されるリスクあり～

第一生命経済研究所

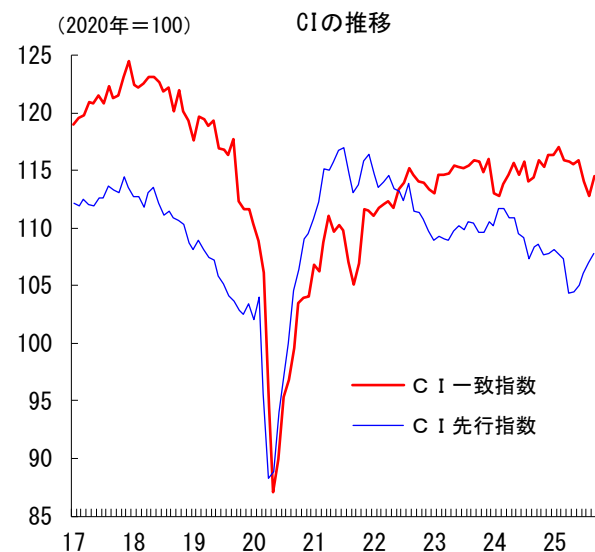
シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

### CI一致指数は3ヵ月ぶりの上昇か

内閣府から11月10日に公表される2025年9月の景気動向指数では、CI一致指数を前月差+1.7ポイントと予想する。内訳では、鉱工業生産指数や投資財出荷指数、輸出数量指数など輸出・生産関連系列が押し上げ要因となるだろう。

CI一致指数は3ヵ月ぶりのプラスが予想され、単月としての上昇幅もそれなりに大きい。7、8月の低下からの反動の面も大きく、強い結果とは言えないだろう。仮に9月が予想通り上昇したとしても、CI一致指数の7-9月期平均の値は4-6月期を2.0ポイント下回るほか、9月の水準は直近ピークである2025年2月の水準を2.6ポイント下回る。均してみればCI一致指数は足元で弱い動きと判断される。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2025年9月は第一生命経済研究所による予測値

### 基調判断が10月分で「悪化」に下方修正されるリスクも

CI一致指数の基調判断は「下げ止まり」で据え置かれるだろう。これで17ヵ月連続の「下げ止まり」判断となる。

なお、その次の10月分では、(9月が予想とおりと仮定した上で)仮にCI一致指数が前月差▲0.5ポイント以下になれば、基調判断が「悪化」へ下方修正されることに注意が必要だ。ここでCI一致指数と関連の深い鉱工業指数をみると、10月の生産予測指数は経済産業省による補正試算値が前月比▲0.5%と小幅低下見込みとなっている。微妙なところではあるが、10月の基調判断が「悪化」になる可能性も相応にあると見ておきたい。

仮に「悪化」となれば、2020年7月以来のこととなる(2019年8月～2020年7月が「悪化」)。

「悪化」判断の定義は「景気後退の可能性が高いことを示す」であり、CI上では景気後退シグナルが点灯する。仮に「悪化」判断に転じた場合でも、①過去の景気後退局面と比較してCIの落ち込み度合いがかなり軽微であること、②日銀短観等、CI以外の経済指標では目立った落ち込みがみられないことなどを踏まえると、景気が後退局面に陥っていると見る必要はないと思われるが、警戒しておくに越したことはないだろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

